

第 22 回 NOMURA Award (特別賞) 受賞者コメント

筑波大学附属駒場中・高等学校 山本 智也 教諭

受賞コメント

日経 STOCK リーグ参加の経緯

授業等で組織的に取り組んでいるわけではなく、生徒が自主的に課外活動として参加しています。第7回から毎年のように参加チームが出ており、先輩の取り組みを知って「自分もやってみよう」と思うようです。近年オンラインで授業関連の資料や情報を共有し始めたことをきっかけに、私からも生徒に紹介するようになりました。「儲けたら勝ち」というゲームではなく、投資を通してリアルな社会への理解を深め、社会的な課題に関与していくという趣旨を強調しています。

日経 STOCK リーグの取り組みについて

中2・中3の総合的な学習の時間で「地域研究」を実施しており、生徒はグループでテーマを設定して企業や官公庁に取材をし、成果を発表する活動を経験しています。日経 STOCK リーグはそうした協働的な探究活動の力をさらに伸ばす応用編のような位置付けです。特に意識しているのは「面白くて続きを読みたくなるレポートか」という観点です。時事まとめ本からそのまま取ってきたようなテーマ、調べたことをうまくまとめただけの文章では、読み手を退屈させるでしょう。自分たちらしい問題意識と考察を磨き上げられるように、率直にコメントしています。

参加を終えて

私は社会科・公民科の教員ですが、金融や証券投資にもともと詳しくはではありません。顧問を引き受けたことをきっかけに、「生徒の半歩先くらいをいければいいか」くらいの気持ちで勉強してきました。新たな知識を得て視野を広げることができるのは単純に面白いですし、自分が楽しめる範囲でやっています。また、生徒がどんなテーマに関心をもつのか、そのテーマから何を考えるのか、レポートを読むときは毎年ワクワク感があります。

<https://manabow.com/sl/result/index.html>

第 22 回 NOMURA Award (特別賞) 受賞者コメント

関市立関商工高等学校 棚橋 英一 教諭

受賞コメント

日経 STOCK リーグ参加の経緯

経済に関する教科の指導は、講義中心の内容になりがちです。この「日経ストックリーグ」への参加は、講義で得た知識を生かして、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をする上で、最適な教材であるため、毎年参加させていただいています。

日経 STOCK リーグの取り組みについて

指導上大切にしていることは、「経済（経世済民）」の考え方です。本来の意味は、苦しむ人の世を治め、環境を整えて、多くの民を救うことにあります。よって、各グループが考えたテーマに沿って株式投資することで、暮らしやすく未来への希望が溢れる世の中に繋がるようなレポート作成をするよう指導しています。

参加を終えて

テーマ設定の際、コロナ禍に関するものやオリンピックの開催など、来年、再来年の経済状況の予測だけを見て、テーマを決めようとするチームが多くありました。しかし、この「日経ストックリーグ」では、ポートフォリオ構築に株式の「長期保有」と「分散投資」の考え方を重視しています。目先の利益だけにとらわれてしまうのではなく、生徒一人一人が 10 年、20 年、もっと先の未来に目を向ける力を育てていくことを大切に、今後も指導を続けていこうと思っています。

<https://manabow.com/sl/result/index.html>

第 22 回 NOMURA Award（特別賞）受賞者コメント

京都産業大学附属高等学校 上羽 敏仁 教諭

受賞コメント

日経 STOCK リーグ参加の経緯

高校の授業の多くは既存の知識をより多く持つことを目指しており、その多さを比較するためのテストで成績をつけています。しかし、高校卒業後の人生をより豊かに生きるためには、目の前の問題を解決する力、課題を克服する方法を見出す力が必要です。こうした、近年「メタ知識」と呼ばれる力をつけてくれることを目指して日経ストックリーグに参加させて頂いています。

日経 STOCK リーグの取り組みについて

少子化が進み、親が過保護・過干渉みであることや大抵の望むものは手に入る環境に育った生徒達は、与えられた課題には誠実に取り組み、大きな努力も惜しみません。しかし、自ら課題を見つけることや、解決方法を探すことは苦手です。社会を隅々まで見渡して問題点や困りごとを見つけ出してテーマ決定に繋げる、レポート作成過程での情報収集方法を探るなど、産みの苦しみを伴う作業の中で『創造する楽しみ』や『克服し達成する喜び』に気付いて欲しいと思っています。そのため、具体的な助言は極力我慢しています。

参加を終えて

生徒の創造力・コミュニケーション力・問題解決能力・粘り強さなどは大きく改善されていきますが、進めば進むほど個人差も大きくなります。強制力を発揮しないように心がけているため、取り組み姿勢にも差が出てきてしまうことは課題で、工夫が必要です。

取り組んで 8 年目、今回は 23 チーム中 5 チームが 1 次審査を通過しましたが、入賞には遥か届かない現状です。内容の充実も大きな課題です。

<https://manabow.com/sl/result/index.html>

第 22 回 NOMURA Award（特別賞）受賞者コメント

日本大学 吉田 博之 教授

受賞コメント

日経 STOCK リーグ参加の経緯

マクロ経済学と日本経済をゼミ学習の主なトピックに設定しており、学生の主体性と積極性を涵養できる「生きた教材」としての日経 STOCK リーグへ参加してきました。社会情勢や経済政策の影響を受けながら短期的にも長期的にも株価が変動することを実感してもらうために、日経 STOCK リーグに参加しています。

日経 STOCK リーグの取り組みについて

日常生活で直接的に目にする有名企業以外にも日本経済を支える企業が多数存在していること、さらに、それらの企業が有機的に連関して初めてマクロ経済が機能していることを強調しています。また、個人的な取り組みだけでは解決が困難な社会的課題について学生自らが考える機会にもなっています。さらに、ポートフォリオを構築する際には、「長期投資」と「分散投資」の重要性も強調しています。日経新聞などのマスメディア情報を収集し幅広い視点から企業を分析することが学生の意識の向上を生んでいます。

参加を終えて

日経 STOCK リーグでは、株式ポートフォリオのパフォーマンスの高低が評価されるのではなく、投資テーマ・ポートフォリオの構築・レポート作成といった複数の点が評価されるという意味で、学校教育の現場で活用するに相応しい内容を備えています。このようなすばらしいコンテストを長年に渡って開催されている関係者の皆様に感謝申し上げます。

<https://manabow.com/sl/result/index.html>